

キクイムシ類によるなし果実穿孔被害について

1 発生の経緯

平成 27 年 8 月に県南のなし園において、キクイムシ類による果実穿孔被害が確認された。これらのキクイムシ類を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、サクセスキクイムシ及びハンノキキクイムシであることが確認された。両種は成虫が各種針葉・広葉樹や果樹の枝幹に穿孔加害し、被害をもたらすことで知られている。近年、なし果実への穿孔被害が他県で報告されており、本県でもなし果実への穿孔被害が初めて確認された。

なお、同なし園では、両種による枝幹の被害も複数確認されている。

2 発生状況

- (1) 発生作物 なし（果実への穿孔被害）
- (2) 害虫名 サクセスキクイムシ *Xyleborinus saxeseni* (Ratzeburg)
ハンノキキクイムシ *Xylosandrus germanus* (Blandford)

3 形態的特徴

- (1) サクセスキクイムシ: 雌成虫の体長は約 1.9~2.2mm, 光沢のある黒褐色で細長い円筒形である。
- (2) ハンノキキクイムシ: 雌成虫の体長は約 2.0~2.3mm, 光沢のある黒~黒褐色で短円筒形である。

4 生態及び被害

(1) 生態

- ・サクセスキクイムシの発生は年 1~2 回で、成虫態で樹内越冬する。成虫は、翌年 4~5 月に脱出して、樹勢の弱い衰弱している樹の枝幹に穿孔する。孔道の直径は約 0.7mm で、そこから粉状の細かい木屑（フラス）を排出する。比較的大木、老木、太い幹や主枝を好んで加害する。
- ・ハンノキキクイムシの発生は東北地方で、越冬後の成虫が 5~6 月前半、第 1 世代成虫は 7~8 月前半頃に活動する。第 2 世代は詳しく調査されていない。孔道の直径は約 1mm で、そこから線香状の木屑を排出する。
- ・両種とも、成虫が樹の枝幹に穿孔してあけた孔道にアンブロシア菌（共生菌）を培養して幼虫のエサとする養菌性である。

(2) 果実への被害

- ・成虫がなし果実へ穿孔して被害果が生じる。被害果は、日数の経過とともにその穿孔部分を中心に腐敗する（図 2）。
- ・腐敗果は、穿孔穴を中心に一様に褐変する。また、断面を観察すると穿孔部分以外に空間がみられないのが特徴である。

(3) 寄主植物

- ・両種は、広食性で成虫がくり、かき、もも、なし、りんごなどの果樹をはじめ、各種針葉・広葉樹の枝幹に侵入して材部を穿孔食害する。なお、本県では、なし以外にキウイフルーツの枝幹からサクセス

キクイムシの寄生が確認されている。

5 防除対策

- (1) 樹勢の衰えた樹は、本種の加害を受けやすいので、適切な肥培管理により樹勢の維持を図る。
- (2) 枯死樹は発生源となるので早期に伐採し、適切に処分する。
- (3) 剪定した枝幹は園地付近に放置せず、速やかに処分する。
- (4) 被害果を確認した場合は、周辺に枝幹の穿孔被害も発生している可能性が高いので、木屑を目印に園内をよく観察する。
- (5) 被害樹を確認した場合は、成虫飛来時期にトラサイドA乳剤 200 倍（4～7月、但し収穫 21 日前まで）を樹幹部に十分量散布し、食入を防止する（表）。

表 なしのキクイムシ類に登録がある薬剤

薬剤名	有効成分	系統名	希釈倍数	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	マラソンを含む農薬の使用回数	MEP を含む農薬の使用回数
トラサイドA乳剤	マラソン・MEP	有機リン	200 倍	4～7月 (但し収穫 21 日前まで)	樹幹部に十分散布	5 回以内	5 回以内 (休眠期は 1 回以内)	6 回以内

(登録内容は平成 27 年 10 月 14 日現在)



図 1 成虫



図 2 キクイムシ類による果実被害



図 3 なし果肉内の成虫

<問い合わせ先>

宮城県病害虫防除所予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町 4 番 17 号 (宮城県仙台合同庁舎内)

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺 1 番地

TEL 022-383-8246, FAX 022-383-9907

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/